

ミステリーだもん、スリルいっぱい盛り上げるよー!



深夜のひかり公園。和男の前に現れた黒ずくめの純子。「あなたには長谷川君殺しの罪をかぶってもらわねえ」と言う純子に恐る恐るその理由を問う和男。

転

おもしろい展開だが、さてどうやってまとめるかだな!

あー! なぜ和男に罪をかぶせるのかまで考えてなかったや。えい、こうしちゃえ!

純子は「なーんて、ぜ〜んぶ嘘よー!!」と、掘っておいた落とし穴に和男を突き落とす。純子は昔から大嘘つきだったんだ!、と思ひ出す和男の意識は遠のいていくのだった。

結

しかし、嘘の記憶をうえつけ、拓と会える時間には期限が。過ぎると両親のいる天国に行けなくなる。それが運動会の前日だったのだ。五郎は笑顔の拓と別れたいと思ひ直す。

転



「期限付き」で、展開に勢いが出てきたぞ。このまま一気に「結」につなげよう。

結

「やっぱり明日は行けるよ」と最後の嘘をつくと、喜び安心して眠る拓。徐々に薄くなっていく五郎の姿。心配した叔父夫婦が家にやって来て弟を抱きしめる。そこには五郎の姿はなかった。



五郎は叔父夫婦と弟の幸せそうな光景を見て、やっと天国に行けたか。うまく「結」になったな。

まとまらないから、強引に話を終わらせる… やつてはいけぬ典型だな。さー、やり直した!

ここで一番、書きたいことを書くんだよな。

結

万年筆先生のプチプチメモ

頭の中にあるイメージを形にしていけるのが、あらすじづくり。「妄想」を「構成」に変えるわけだ。小説を書いている途中で「あそこはこうしておけばよかったな」と後悔したり、途中で投げ出したりしないためにも、書く前に最後までストーリーを練っておこう!

あらすじができたなら、それをふくらませ書いていけばいい。あらすじは小説の設計図。しっかりできていけば書き上げられるぞ!

わかりました!



ハガキ文学大募集!

1枚のハガキにキミのオリジナルの小説を書いて送ってね! テーマ、ジャンル、長さは自由。びっちり書くのもよし、数行でもOK! おもしろい作品は、万年筆先生が誌上で紹介&アドバイスするよ〜!! 住所・氏名・電話番号を書いて 〒101-8001 東京都千代田区一ツ橋2-3-1 小学館 小六⑦「小説すらすら講座」係 まで送ってね! ※応募ハガキの取り扱いについては、227ページをご覧ください。

次回のテーマは

書き出しが肝心! 読み手をひきつけ、続きが読みたくなる書き出しとは!? 名作の冒頭を参考に、学んでいくよ!!

ハガキ文学大発表!

井上あかり/北海道

今月のすらすら賞

不思議な本の中に、主人公が吸い込まれる発想が、ふたりの会話もいささか苦みかたれているが、夢だつたというオチに送ったのは残念。構成力がある、この結末以外も考えてみよう。

万年筆先生のプチプチメモ

プロアマ問わず、賞の受賞は創作のはげみになるもの。しかし、権威ある文学賞を辞退する人もいます。1964年、フランスの哲学者サルトルはナント、ノーベル文学賞を辞退。理由は、自分は哲学者であるという強い自負。なんとももったいない話である。

